

# プラネタリウムにおける高齢者・障がい者への投影

飯塚礼子(日食情報センター)

プラネタリウムで高齢者のグループ投映・障がい者の方のグループ投映の際には通常の投影とは違います。少しでも来場者に負担なく楽しんで頂く為には、投映前から配慮する事柄や課題もあります。もちろん投映内容にも工夫は必要ですが、プラネタリウム側の受け入れも負担なく実行できる仕組みがあれば、もっと多くの方々が来場くださるのではないかと考えます。

## 1. 特別支援学級(小学生)へのプラネタリウム投映

草加市にあるミニ博物館『地球&宇宙』[1]において、プラネタリウムの投映を行っていました。学習投映としては近隣の小学校が1クラス毎に来館し、小学校4年の理科授業を約1時間します。授業の内容は太陽系の中の地球の存在、太陽について、季節の星座、星座神話についてです。最初の30分ほどは太陽スケールモデルやボードを使い、後半の30分はプラネタリウム投映になります。

ある日いつもの授業を行おうと準備していましたが、来館した小学生の雰囲気普段と違いました。途中で気がついたのですが、特別支援学級の子どもたちでした。来館の予約を受けた時にはその旨聞いていなかったのが、子どもたちが取った行動に最初は上手く対応ができませんでした。そこから学んだことを活かしていただけたらと考えます。

### 1.1. 知的障がい・発達障がい児童(小学生)と通常の学習投映との違い

新しいことに興味を持てるのが小学生(幼児も)の素晴らしいことだと私は思っています。特に星や宇宙については興味深々ようです。以前プラネタリウム投映の前に「私、星は大嫌い」と、自ら私に駆け寄り訴えてきた女子児童がいました。何がその児童をそうさせたかは不明でしたが、1時間の授業が終わった際に、「好きになった。」と言ってくれたのでほっとしたことがありました。授業内容によって児童たちの受取方が違うこと表1に表しました。

表1 知的障がい・発達障がい児童(小学生)と通常の学習内容の捉え方の違い

授業内容	小学校4年生の学習投映	障がい児童の投映
前説 (諸注意)	団体行動、学習の意味付の話	投映の楽しさを表に出す前説をする。
月・太陽・星の動き	太陽・月の動きを目で追う。 気付きのフォロー	じ〜と見るのが苦手。 (注意欠陥多動障害)
星座解説	夏の大三角、秋の四辺形から星座をたどる。星の色、等級の違い。	自分で星の形を探す。 一度覚えると深く興味をもつ。 (アスペルガー症候群)
星座神話	好きそう	好きそう
宇宙旅行	大好き	恐怖を感じる児童もいる (感覚過敏)

## 1.2. 知的障がい・発達障がい児童への留意点

天文教育普及のために投映技術を磨くことも大切ですが、それよりもまず受け入れることが大切です。その為にはプラネタリウム投映前の導入時点での配慮・工夫に力を注ぐ必要があると感じています。もちろん話し方や言葉の選び方も重要です。たとえば、星を見るために室内を暗くしなければならないことへの説明、暗くなることが恐怖ではないことへの説明などです。

以下の4項目は、私が児童たちと接するときに留意している点です。

1. 児童の個性 → 活かすトークを！…掛け合いを楽しむ。引き立てるよう心掛ける。
2. 暗さに恐怖を感じる → おまじないを！…安心感を物や身振りで補えるなら行う。
3. 言葉の理解度(天文・宇宙) → 到達点を手前に！…習っていない言葉があるかもしれないので確かめながら進める。
4. 団体行動 → 時には先生(引率者)にお任せ！…ただ、児童の参加したい気持ちには答える。

## 2. 高齢者(ディーサービス)へのプラネタリウム

高齢者施設や在宅支援を受けている高齢者に度々接しています。自らもそれらの施設で研修を受けさせて頂いたことがあります[2]。そのような方々がプラネタリウムにお越しになり、特別投映を行うことがあります。ここで述べたいのは、投映内容ではなく投映に際しての注意点、配慮点を記載します。

### 2.1. 高齢者の視的障害

年齢と共に視力が衰える病気があります。視力が低下する「白内障」、視野障害を伴う「緑内障」です。ドーム内ではドーム外より暗くなっているので安全面に気を配ります。また、暗いところや夜間になると見え難くなる「夜盲」があります。プラネタリウムの座席に案内する際にも配慮が必要な場合があります。

ドームに映しだす星についても通常だと満天の星空に心奪われますが、高齢者の中には星のひとつひとつの見分けが困難な場合もあるようです。よって、少ない数の星空案内の方が喜ばれる時もあります。

### 2.2 高齢者の聴力障害

加齢によって次第に音が聞こえなくなる「老人性難聴」があります。補聴器をつけておられる方もいます。補聴器によっては背後の音が聞こえにくかったり、ハウリングを起こすこともあります。マイクを使った解説では、音がキンキンして不快を感じる方もいるようです。プラネタリウム解説者の話す速度にも配慮が必要です。

### 2.3 認知症の高齢者

軽度の認知症の方もプラネタリウムを楽しみにいらっしゃいます。ただ、急な環境の変化にびっくりされる方もいるので、ドーム内での明かりの変化に配慮が必要な時があります。解説はこれからどのようにこのドーム内が変わるのか、明るさの変化など先に説明すると安心される場合が多いようです。

### 2.4 身体への配慮

高齢者の中には身体に負荷をかける事への配慮が必要な方もいます。プラネタリウムの座席はリクライ

ニングシートになっています。普通に背もたれに寄り掛かる姿勢も障害を持っている方や高齢の方には苦痛を伴う方がおられます。無理してリクライニングシートを使わず、座ったままの姿勢でご覧になる方もいますので、デーサービスの団体では担当者に確認されることをお勧めします。

### 3. まとめ

プラネタリウムの役割の中には、科学的天文普及を目的に行う場合と生活の中に張り持たせるために見に来られる場合があると考えます。特に後者においては事前にリサーチできればその目的に合った投映ができることが望ましいと考えます。来館される方のニーズに合い、そこに科学的エッセンスを盛り込める投映ができるように、事前リサーチの方法や内容について更に深めたいと考えています。

### 参考文献

[1] ミニ博物館『地球&宇宙』 <http://blue-terra.jp/mini.html>

[2] 介護概論 ((株)ニチイ学館) 第4,5章p157～239